

## 1 「見通し」の学習過程の位置の変更

これまでの問題解決の学習過程を次のように行っていた。

◎問題（資料）の提示→問い合わせをもつ・問い合わせの共有→課題の設定→自力解決→集団解決→振り返り→まとめ

これまで、「問い合わせをもつ（わかっていること？ 聞かれていることは？ 単位は？ 前時の学習との違いは？）・問い合わせの共有（求める方法？）」を同時に行っていた。学習問題に対しては、正対できたが、その後に「課題設定」を行うため、課題の文言を入れた問い合わせの共有（求める方法）ができなかった。そのため、考察の内容やまとめが薄かった。

◎問→見（問い合わせをもつ・問い合わせの共有）→課→自→集→ま→ふ

そこで、次のように変えるとよいことに気づいた。

◎問題（資料）の提示→問い合わせをもつ→課題の設定→問い合わせの共有→自力解決→集団解決→振り返り→まとめ

この新問題解決の学習過程では、課題の設定を問い合わせの共有の前に行うため、しっかりと課題文の文言を問い合わせの共有に取り込むことができる。

（例）問題

子供が8人遊んでいました。そこに3人遊びに来ました。全員で何人になりますか。

これまで、求める方法も問題提示の後に行っていたため、見通しは（求める方法）は、「足し算式は $8 + 3$ 」だけとしていた。

課題文

8+3の計算の仕方を、図・式・言葉を使って説明をしよう。

課題の文言に、図・式・言葉があるため、8+3の計算とあわせて、この文言を問い合わせの共有（見通し）の中に取り込めることができる。「見通し」が確かなものとなると自力解決がしやすく、また考察（深い学び）の中で見通しの中で出た内容を取り入れることができる。

◎問→気づき（問い合わせをもつ）→課→見（問い合わせの共有）→自→友→考→ま→ふ（課題の文言を見通しに入れる）

## 2 学習過程の親戚関係とグッズの色分け

「見通し」や「考察」を重視していくと、学習過程全体に、いわゆる親戚関係があることが分かる。

・「問い合わせの共有」と「考察」との親戚関係

見通し（問い合わせの共有）で求め方や課題文の文言を取り込めるので、見通しで出た内容を考察のところで検証することができる。

・「課題」と「まとめ」との親戚関係

課題の1行目は、まとめの1行目に記載するため親戚関係となる。

・「自力解決」と「集団解決1（まずは考え方の出し合い）」の親戚関係

自力解決で出た内容を集団解決1の出し合いで同じように出すことができるので親戚関係となる。

・学習過程のグッズの色分け

学習過程のそれぞれを色分けするとわかりやすくなる。

問い合わせ→気づき（問い合わせをもつ）→課題 → 見（問い合わせの共有）→ 自 → 友 → 考 → ま→ ふ

(黄) (青) (緑) (緑) (青) (黄)